



# 大石田焼コーディネーターとして

R8.4.8 神田 光彦

# やきものとは

焼き物は大きく分けて、粘土を主原料とする温かみのある「陶器」と、石の粉を主原料とする硬質で滑らかな「磁器」に分類されます。

備前焼や有田焼などは、その代表例です。これらは、かつては生活必需品として、現代では食卓を彩る芸術品として、私たちの暮らしを支え続けてきました。

# 大石田の粘土

この粘土には、モンモリロナイトやハロイサイトといった成分が豊富に含まれており、「水を通さない（浸透性が極めて低い）」という最大の特徴があります。

しかし！制作しにくい！

# オリジナル釉薬

大学で密かに研究していたのが釉薬

自分にしか出せない釉薬の完成



飴マツト結晶釉

# 焼成方法

大石田の蕎麦殻を使用し炭化焼成

蕎麦殻の跡やグラデーションが特徴

BOTAコーヒー七日町  
つち  
使用中



# 陶芸の面白さをさらにここ大石田で

陶芸の面白さは、土の性質・釉薬の化学反応・焼成法で  
無限のバリエーションが存在

だからこそ

これからもなくなることはない工芸の1つ

# 1年目の計画

4月～9月

- ・粘土研究（鋳込み、石膏型、轆轤  
テストピースの制作  
大石田粘土に釉薬をかけ焼成  
酸化焼成、還元焼成、炭化焼成
- ・産地研修  
波佐見焼、益子焼、笠間焼、備前焼など  
現地作家との交流  
歴史探究

なぜ

最初に大石田粘土の使いにくさを軽減することで今後の制作研究の幅を広げることにつながる。

産地を見ることで町の成り立ちや、作家さんとの交流を通じて今後の活動に活かしていく。

## 10月～2027年4月

- ・大石田薪窯実施

小中学生の陶芸体験作品と共に  
4月から9月の結果を元に焼成

- ・米沢グループ展の参加

今年3月にARTS MEET OKITAMA2026  
10回記念賞受賞  
市民ギャラリーにてグループ展参加

大石田薪窯をこれからも続けていくために、  
町の方、大学生の参加を促す。自然釉の面白  
さをさらに高め、広めていくことを目指す。

大石田焼を町内以外に展示する個人的第一歩  
としての目標とする。

# 1年目計画（その他）

- 水辺で乾杯の参加  
大石田焼作品販売など
- かるた大会の景品制作
- 蕎麦祭の出店販売
- マルシェイベントの参加
- 友人のグラフィックデザイナーとの共同制作  
広告、Web、印刷協力
- おそばやさんオリジナル蕎麦ちよこ計画

催し物の参加をすることで住人の方との交流と、大石田焼のPRに繋げる。大学の友人との交流を閉ざさず、自分にはできない視点を発見してもらう1つの要因とする。

# 2年目の計画

4月～10月

- ・アトリエの整備  
空き家をアトリエにする計画の一步  
インターン生の募集
- ・大石田焼イベントの計画、実施  
薪窯のタイミングに合わせる予定
- ・産地研修

なぜ

制作場として空き家をアトリエにする。そのためには、人手が必要でインターン生を募集して大石田焼イベントをゴール地点とする。大石田焼のイベント内容は検討中。産地研修に関しては1年目と同じ理由。

## 11月～2027年3月

- ・アトリエ民宿の完成を目指す  
陶芸体験、大石田焼ギャラリー、宿泊
  
- ・個人制作を行い公募展に出品  
大石田焼の工芸進出を目指す

アトリエを3年目に、活用できるようにすることで、イベントの運営を行いやすくする。3年目に民宿としても動けるようにするためにも2年目から3年目春に終わらせる。

自分の制作技術向上のために目標の設定を行う。

# 2年目計画（その他）

- 水辺で乾杯の参加  
大石田焼作品販売など
- かるた大会の景品制作
- 蕎麦祭の出店販売
- マルシェイベントの参加
- 友人のグラフィックデザイナーとの共同制作  
広告、Web、印刷協力

催し物の参加をすることで住人の方との交流と、大石田焼のPRに繋げる。大学の友人との交流を閉ざさず、自分にはできない視点を発見してもらおう1つの要因とする。

# 3年目の計画

4月～

- ・3年目として大石田焼イベントの開催  
10月を予定
- ・アトリエ民宿ギャラリーの完成、実施  
実験として3回ほど動かす  
長期休み学生をターゲット
- ・3年間の作品と共に個展を開く

なぜ

2年目に実施したイベントを活かしつつ、長く続けるイベントへ。大石田焼のプロデュースとともに大石田ツアーを通して魅力の追求を図る。民宿客は、長期滞在をメインに考える。1からの陶芸体験を目標。

# 3年目計画（その他）

- 水辺で乾杯の参加  
大石田焼作品販売など
- かるた大会の景品制作
- 蕎麦祭の出店販売
- マルシェイベントの参加
- 友人のグラフィックデザイナーとの共同制作  
広告、Web、印刷協力
- おそばやさんオリジナル蕎麦ちよこ計画
- 大石田粘土コンペ

催し物の参加をすることで住人の方との交流と、大石田焼のPRに繋げる。大学の友人との交流を閉ざさず、自分にはできない視点を発見してもらおう1つの要因とする。

大石田の粘土を各産地の作家さんや学生に使用してもらい薪窯で焼きコンペ大会を開催。景品はお蕎麦商品券や宿泊券など大石田訪問型景品とする。

# 書ききれなかったこと

- 給食陶器計画
- ふるさと納税の作品開発
- 飲食店向き陶器「対」商品化
- 大物作品の制作
- 釉薬制作体験

6年生が1年生のお茶碗を制作し使ってもらうことを目標。割れることは当たり前で直すことと使い続ける大切さを学んでいただく。

ふるさと納税参加。

オリジナル商品の開発中。

流し台・お風呂の制作。

陶芸体験は作陶体験が主流。

釉薬体験はほぼ存在しない！

# 任期を終えたら

アトリエ民宿ギャラリー

目指す人物

作陶家 長瀬 渉氏

山形県山形市出身 父：山寺焼

現：ながせ陶房 長崎県波佐見焼



生活に根ざしたものづくり：「生活を楽しむこと」を大切にし、日々の暮らしで必要と感じるものや、食事をより楽しくする発想から作品を生み出しています。

実用性と使い心地の追求：飲み口が唇にフィットするスープボウルや、卵かけご飯が美味しく見える茶碗など、使う人の立場に立った細かな設計が特徴です。

地域との繋がりと行動力：地元の協力のもと、半年かけて巨大な薪窯「ウロボロス」を完成させるなど、地域連携や恩返しを重視した活動を行っています。